

武石地域協議会会議録

日時 平成 18年 12月 21日（木）午後 2時から午後 5時

場所 武石地域自治センター 2階会議室

出席委員 井出守雄委員、伊藤静子委員、伊藤隆子委員、内田安博委員、柿畠祐子委員、清住章雄委員、清住隆幸委員、小山洋江委員、桜井敏昭委員、桜井美枝委員、高田忍委員、滝沢潔委員、滝沢幸彦委員、竹内新蔵委員、松代典之委員、依田せつ子委員

欠席委員 新井繁雄委員、北沢直美委員、橋詰真由美委員、松井幸夫委員

市側出席者 宮下武石地域自治センター長、広川武石地域自治センター次長、伊玉地域振興課課長補佐、小山政策企画担当係長、掛川主事

1 開会

（広川武石地域自治センター次長）

ただ今から第3回武石地域協議会を開催させていただきます。

2 会長あいさつ

（桜井会長）

各委員の出席に感謝いたします。

前回の協議会では、それぞれの立場でご意見をいただきありがとうございました。国、県、市町村等で、首長の問題が大変多くなっています。選挙で選ばれた特殊な人たちの業界談合という中での犯罪なのかもしれませんが、これが一つの行政不信となることを非常に危惧しています。行政のことを見ている人が感じるものを行政に伝える、時には批判をする、注文をつけるということは必要だと思っています。合併して、武石地域だけを考えると、議会もなくなった、理事者や特別職もいない、そういう人たちがいない中で多くの人と意見を交わしたり、住民の意見を吸い上げて行政を運営していくことは、今の職員の皆さんは大変だろうと思います。誰かが見ている、批判をする、注文をつけるということはぜひ必要だと思っています。

今日ここで協議される内容は非常に大切で、大きな方向性が出る話になると思います。それぞれの皆さんが行政を見ていて気付いた点をこの会で出していただくことが、この地域をより良くしていくことだと考えています。話の大小や意味の有無ではなく、日頃感じていることを出していただきたいと思います。

前回、協議会で出していただいた意見は、その場で答えられるものや上へあげるもの、今後課題として残さなければいけないものがありますので、事務局でわけいただき、回答を要するものはきちんと処理していただいて、言いつ放し、聞きつ放しにならない体制を確立して進めていきたいと思いますので、皆さんが率直に発言していただけるよう希望

して、あいさついたします。

3 センター長あいさつ

(宮下センター長)

合併して9ヶ月が経ち、18年度も4分の3が終わろうとしています。武石地域については、大改革があり大変な年でした。地域の皆様には合併に対する大きな戸惑いがあったことと思います。職員についてもようやく馴染んできたかなと思っています。4分の3過ぎたところですが、新設対等合併ということで新市の体制作りが進められてきています。各種委員会の立ち上げや各種制度づくりなど行ってきました。武石地域におきましても、財産区が設置され、先日も第2回財産区議会を開催されました。また、区長会につきましても、来年1月1日から上田市自治会連合会に加入することになり、明日正副会長にご出席いただき、統合調印式が行われることになっています。社会福祉協議会につきましても10月1日に合併し、新市一本化されました。それに伴い、社会福祉協議会の福祉事業の再編も今後始まっていくだろうと思っています。

現在市としては、11月から19年度の予算編成が行われており、今まで武石方式で行われてきたことも査定されますので、担当としてはこれからが大変かなと思っています。

今後8年間の新市の最上位計画として総合計画の基本構想、基本計画の審議が現在行われており、本日は特に総合計画の中の武石地域の計画をテーマにお考えいただくことになっています。予算づくり、地域計画を通じて地域政策に意見を反映するとともによい機会だと思っていますので、活発なご協議をお願い申し上げてあいさついたします。

ご苦労様です。

4 地域協議会の意見書に対する回答

(広川センター次長)

前回10月27日の地域協議会で、四つほど要望が出ましたが、その中から「広報うえた「武石版」の発行について」は正式に協議会の意見書として、11月13日付武石地域協議会長名で市長へ提出いたしました。その回答が12月4日付でございましたので、ご報告いたします。

—回答書 朗読—

現在、広報専任の担当者がいないので、各担当者に記事作成を依頼し公民館だよりの発行とも併せて、「地域自治センターだより」という形でA4、4ページほどのものを隔月発行したいと思っています。

保育園の統一献立につきましては、10月30日に保育園長と市の担当栄養士に聞き取りを行いましたので、ご報告いたします。武石村当時は2ヶ月に1度の計画で、焼き芋会やもちつき、まゆだま作りなどのお楽しみクッキングを実施していましたが、18年度当初はお楽しみクッキングは計画されていませんでした。統一献立については18年5月か

ら実施していますが、献立の作成については各園で残したいメニューなどを調査し、取り入れています。また、各園の保育計画を尊重していますので、行事に合わせて統一献立を変更することはできます。お楽しみクッキングの計画があれば、以前と同じように実施できます。もちつきや焼き芋会などは従前どおりやっています。今日の保育園長からの話では、4、5月のメニューが変わった当初は給食を残す子どもも多かったようですが、今はほとんど残す子どももいないし、おやつもすべて手作りでやっているということです。要望があれば献立に取り入れてやっていけるということですのでご報告させていただきます。

地域分権につきましては、12月市議会において2名の議員からも地域分権について質問が出ていましたので、そのときの市長答弁を朗読させていただきます。

「合併協議においても、地域住民のニーズを適格に対応できる体制を構築するとともに、今まで積み重ねてきた地域のまとまりを大切にしながら地域や市全体の発展を目指す分権型合併を検討してまいりました。その中で地域自治センターと地域協議会を設置しました。今後、各自治センターにおいて、住民自らが地域固有の課題を解決し、住民自らが地域づくりを行っていくという住民自治を進めることが分権型自治にはなくてはならないものであり、この視点からも権限、財源のあり方について考えてまいります。現在、行政改革推進委員会でも分権型自治について論議がされていますので、この答申を受けた上で地域協議会等で論議をいただきながら、分権型自治の権限、財源のあり方等を総合的に検討してまいりたいと考えてございます。」

それから、地域協議会の分科会につきましては、武石村議会の際には総務文教、社会常任、産業建設と3つに分けていたわけですが、前回、武石の長期計画の振興計画をつくったときには委員18名いたわけですが、住民生活部会（保健・医療・福祉・教育）振興部会（農林水産・商工業・観光・労働・雇用）生活環境部会（交通・通信・環境・景観・公園・定住促進）の3つにそれぞれ5～6人の部員に分かれて研究していただいています。委員会を作るとなれば、この辺が参考になるかと思います。以上です。

5 上田市総合計画「地域まちづくり方針」の諮問

（広川センター次長）

第一次上田市総合計画の地域まちづくり方針についての諮問書が市長から会長宛に出ていますので、センター長から伝達を申し上げます。

- センター長から桜井会長へ諮問書の伝達 -

5 協議事項

（1）諮問書の添付書及びアンケートの説明

（広川センター次長）

それでは協議事項に入っていただきますが、協議事項の進行は会長にお願いします。

（桜井会長）

上田中央地域協議会ですでに諮問が行われており、新聞を通じていろいろな意見が出ていました。端的に言うと、抽象的で物の言いようがないというものです。冒頭で申し上げたように、大局的な文章の中にどういういい文章を加えるか、この問題が抜けているといったことを皆さんにご意見を出してもらいたいと思っています。いろんなことを論じている中で、上田市の中で武石地域の課題になっていること、心配されることなど、そういう問題に対する意見等もあれば、答申書などに載らなくても、それをどうクリアするかということが行政の仕事だと思いますので、ここに書かれていることでなくても地域を良くする一つの目的になっていくこともありますので、出来上がったものをどうするかという意見だけではなくて、そういう時間を設けたいと思いますので、ご意見をいただければと思います。

それでは、担当から説明をお願いします。

（小山政策企画担当係長）

—第一次上田市総合計画「地域まちづくり方針」の策定について及び住民アンケート結果（武石地域）の資料に基づき説明—

（会長）

ただ今の説明に対して、質問があればお願いします。

（委員）

ローリング方式というのは具体的にどのようなものですか。

（小山政策企画担当係長）

例えば、来年からの事業を計画する場合、19、20、21年度の3年の間には単年度のものもありますし、継続的に同じ事業を何年かかかって計画を立てるものもあります。しかし、計画は実施計画といって3年ごとに事業を立てます。これを19年度が過ぎたら、20、21、22年度のものを立て、その次の年はまた年度をずらしながら3年間の計画を立てていくという方式です。

（委員）

協議会は、答申までに何回開催する予定ですか。

（児玉地域政策担当係長）

2月の答申までに今回も入れて3回実施したいと思います。今年1回、年が改まってから2回計画を実施させていただいて、答申にもっていききたいという計画でいます。

（2）武石地域まちづくり方針「計画シート」の説明

（桜井会長）

それでは、武石地域のまちづくり方針計画シートについて、事務局から説明をお願いします。

（児玉地域政策担当係長）

—武石地域まちづくり方針「計画シート」の資料に基づき説明—

(桜井会長)

ただ今の説明に対して、質問があればお願いします。

(委員)

武石地域の課題に、もう1～2項目付け加えてもよいということですか。

(児玉地域政策担当係長)

答申には、全部で7項目まで項目立てすることができますので、計画シートにある項目の他に付け加えて7項目以内であれば可能です。上田市全体の計画については別のところで審議されますので、武石地域に特化したものについて項目立てをしていただくことになります。ただ武石地域だけしか論議できないということではなくて、上田市全体の項目については答申書の中へ別の形で付記して意見を申し上げるということになります。

(委員)

武石と他の地域も関連している問題はどのようにしたらよいでしょうか。

(児玉地域政策担当係長)

武石地域に限定して論議をしていただくわけではありませんので、協議を進めていただく中で選択していけばいいのではないかと思います。

(委員)

例えば武石地域外のことを協議してそれを上げていった場合に、市の総合計画の中へ取り入れられることもありうるのですか。

(小山政策企画担当係長)

全体のことは審議会で分野ごとにわかれてやっておりますので、そちらの方へ取り上げて計画に盛るべきことだろうということになれば、上がっていく可能性はあると思います。

(会長)

総合計画の審議会に出ている委員さんもいるので、この地域協議会で出た意見を踏まえて、機関の範囲内で自分の地域の意見として出していただければと思います。

(委員)

計画シートの内容は大ざっぱな書き方ですが、最終的に答申するときには計画シートのような形にするのか、地域の課題として箇条書きにするのか、どのような形で出すのですか。

(児玉地域政策担当係長)

最終的には、計画シートのような文章でまとめたもので答申します。そのためのたたき台として、地域の課題を出させていただきました。課題を検討していただきながら、これをまとめて文章にしていきたいと思います。課題については、事務局で挙げさせていただきましたので、内容についてご検討いただきたいと思います。

(委員)

休憩をいただいて各自で検討してから、協議に入ったらどうでしょうか。

(委員)

事務局で、各担当課からの課題等を出してもらい、次回資料として出していただいて、それをたたき台にして協議をしていけば、早くまとまるのではないかと思います。

（会長）

それではここで１５分間の休憩とします。

- 休憩 -

（会長）

それでは再開します。

それぞれのお立場で抱えている課題が計画シートの中にあるということがあろうかと思っています。そういうことを出していただくことが大事だと思います。先ほど事務局で地域の課題について説明がありましたが、ここに挙がっていないもので課題になる項目がありましたらお出しいただきたいと思っています。

（委員）

計画シートの中で若者の定住促進策がうたわれていますが、上田市全体で見れば１６万人という人口の中で、武石の土地利用をどのように位置付けていくか、若者に限定せず武石地域に定住する人口を増やすことが重要ではないかと思います。

（センター長）

- 武石地域の人口変化（１９９５～２００５年）資料に基づき説明 -

（会長）

上田市の中で、武石地域では何ができるのかを皆さんに考えていただきたいと思っています。

（委員）

私は、若者定住は非常に大事だと思います。今回の合併の中で自治センター方式をとって、この地域のことは地域の皆さんで考えて地域を良くしていくということですので、この地域の担い手がいなければ、地域は良くなっていかない。地域の担い手が高齢者にできるかといえば、やはり働ける、エネルギーのある若者がいないとこの地域は良くなっていかないと思います。この計画シートを見て、果たして若者が定住するための施策が成されているか、不安を感じることもあります。合併前に若者等定住促進条例があり、ある程度定住を促進し一時的に人口は増えましたので、それも重要かと思いますが、やはり住みよい環境づくりをいちばんの柱にもっていかなければいけないと思います。特にアンケートの結果を見ても、住みにくいと感じる部分で、通学・通勤に次いで働く場所がないことや街に魅力や賑わいがないことなどの産業振興策が計画シートの中には出てきていませんので、ぜひ掲げていただいた方がいいのではないかと思います。

（委員）

若者が定住してくれればいちばん理想的ですが、通勤、通学が不便だとか働く場所がないという中で、若者定住を促進するのはなかなか難しいのではないかと思います。武石が

自然環境に恵まれていることや荒廃地の対策を考えたときに都会で定年を迎えた人たちが余生を過ごすにはいい場所ではないかと思います。

（委員）

高齢者が増えても市の負担が増えてしまうので、やはり高齢者を担っていく若い人たちが必要だと思います。

（委員）

若者であれ高齢者であれ武石の人口を維持するということで論議をしていますが、アンケートの結果を見ても、また合併後の住民の声を聞いてみても交通の便というのは非常に大事だと思います。交通の便を良くしていけば人も自然に集まってくるだろうし、住宅を建てるのであれば市街地に比べ武石の方が土地は安いですし、定住策だけでなく工場誘致も考えられることだと思います。上小30圏構想等を武石としてはもう少し取り上げていったほうがよいのではないかと思います。

（会長）

武石の将来の人口を考えたときに、定住策のための手段について具体的に何かいい案がありましたら、お出しいただきたいと思います。

（委員）

私も上田市が一体化するにはやはり道路整備が必要だと思います。全体計画の中に依田川左岸道路や平井寺トンネルの無料化がありますが、ぜひ道路網の整備はしてもらいたいと思います。また、定住策にもつながることかと思いますが、光ファイバーケーブルについては現在丸子TVやN-TTでやっていますが容量が少ないので、企業も対応できる大容量のケーブルの導入を検討していただきたいと思います。

また、定住策を促進するには、武石地域の残すところと開発するところを分けることが必要ではないでしょうか。武石公園裏に開発された住宅地には下水道が通っていないようですので、下水道の整備をしていただきたいと思います。

（委員）

自然や体験などの項目が多いのですが、もっと幅広い分野で項目を立てたほうがいいのか、歴史や文化、自然環境の保全や子育てや教育、産業振興についてもあげた方がいいと思います。

（委員）

自然環境と都市交流だけで武石地域が良くなっていくのかと考えると、かなり疑問を感じます。もっと地に足の着いた産業振興をしっかりと行っていないと、武石に定住する人はいなくなってくると思います。地域の産業を育てるという項目を入れていただきたいと思います。また、高校はほとんどが上田まで通っているという中で、通学、通勤の問題についても非常に重要だと思います。

（委員）

母親の立場としてですが、小さな子どもを遊ばせる場所が武石にはありません。児童公

園がありますが、小さな子どもが遊べるような遊具がありません。若い人たちに定住してもらい、この地域で子育てをしてもらうには、そういう場所を整えていかなければ子どもも増えていかないのではないかと思います。現在、健康センターで未就園児のための「遊びの教室」などを知らない人もいますので、啓発していくことも必要ではないかと思います。また、経済的に第3子を産めないような家庭もありますので、金銭的な援助は難しいかもしれませんが、何か子育て支援策を考えていただきたいと思います。この地域がお年寄りにも子どもにも優しい地域を目指してほしいと思います。

（会長）

国や県も今、子育て支援策を考えていますし、市も具体的にできることを考えていく必要があると思います。金銭的なことや施設などの環境整備等がどの程度できるのか、項目として載せていただいて、なるべく早くに具体化することを行政で考えていただきたいと思います。

他にありますでしょうか。

（委員）

武石の中でIターンの方を大勢知っていますが、ほとんどの方が武石の自然に魅かれてきています。多少の交通の不便さは気にならないと思います。武石の中には不動産屋もありますし、行政で土地などの斡旋等もしていないので、ぜひ自治センターにIターン者のための窓口が必要だと思います。

子育てについては、小学校での教師の確保が難しくなっているようです。今全国的に子育てがしにくい環境だと言われています。親も学校も地域も一体となって応援するという話ですが、実際はそうはなっていないと思います。他市の先生が武石小学校に視察に来たときに、「武石の男の子は立ち姿が悪く、自尊心が低い」という印象を受けられたそうです。私もそう感じます。このまま行くと、将来今の地域協議会の委員さんのように自分の意見をしっかり言える子どもたちがどのくらいいるのだろうか、とても心配しています。原因かどうかはわかりませんが、十数年前から武石はスポーツの振興が大変盛んですが、土日や夜も練習をしていて勉強をする時間がない、する気がない子どもが大勢いるようです。勉強についても今は二極化していてできる子とできない子に分かれてしまうそうです。できない子はあきらめてしまうという状況のようですので、これを救う手立ても考えていかなければいけないと思います。

（会長）

新しいご意見をいただき、ありがとうございます。こういう問題は学校や親だけの問題でなく、市全体や県、国でも考えていかなければいけない問題だと思います。

（委員）

「特色のある地域づくり」が今回の合併の大きな柱になっているわけですが、教育の問題で、上田の学校と武石の学校が全く同じ教育をやらせても価値がないわけです。先ほどの話でもそうですが、「地域の特色のある教育」を目指していけば、地域もPTAも教師も

一体となった教育ができるのではないかと思います。武石として自然や現場実習などが含まれるような教育をしていかないとさまざまな問題が出てきてしまうと思います。地域の特色を生かしていかないと子どもも育っていかないのではないかと思います。

（委員）

組織の中では、上田市教育委員会の中に武石小学校も含まれているかと思います。教育委員会の方針に従って各小学校は動いていくかと思うので、武石の特色を出すのは難しいのではないかと思います。

（委員）

小学校の給食に地場の野菜を提供する「せんぜい畑の会」と学校の先生方との会議があり、今お話いただいたような内容の話がありました。現在、特徴のある教育もやらせていただいているというお話でした。せんぜい畑の会でも学校から注文いただいた野菜については、会員の努力によりほぼ100%武石産のものを出しています。あとは学校の考えによると考えています。上田市全体の中でも、武石は農業についていちばん特徴があると思います。武石の特徴やよい面はもっと表に出していくべきだと私は思います。

（委員）

私も母校給食というのは子どもたちにとってもいいなあと思います。武石で採れたものを使って、手作りであたたかいものを出せるということだけは、ぜひ続けていってほしいと思います。それと、産科の問題についてもぜひ取り上げていただきたいと思います。今は上田地域まで行かなければいけないので、依田窪病院や丸子中央病院に産科を設けるなど考えていただきたいと思います。

（会長）

産科の問題については全国的な問題で、上田市にとっても最大の問題だと思います。この地域としても、ぜひ大きな問題として取り上げていただきたいと思います。

（宮下センター長）

今までお出しいただいた中で、若干行政から説明をさせていただきます。

まず、開発地域とそうでない地域の区分けというお話についてですが、武石は農地法や農業振興地域に指定されている地域には住宅などを建てることはほとんどできませんが、外れている地域は許可できるということが原則となっています。この場合、摘要農地だけです。山林や原野などに住宅を建てることになると行政では一切関与していません。先ほどIターンの方が自然を求めてくるというお話がありましたが、そういう方の多くは人里離れたところに建てたいという方もけっこういらっしゃいます。ところが、行政としてはそれが大きな課題となっていて、上下水道の整備や冬の除雪の問題、子どもがいれば通学の足の確保をどうするかなどさまざまな課題が出てくるわけです。そうしたことを含めて、都会では都市計画区域を設けて、行政でこの地域は宅地にできる、できないなど、市街化区域と市街化調整区域に都市利用の規制をかけることができるわけです。一つの課題として、今後そういうことも考えていかねばいけないと我々自身も思っています。

その場合に問題なのは、都市計画区域税というものが別にかかるということです。都市計画区域に入っている住宅地については新たに税金がかかりますし、調整区域ではかからないということになります。先ほどお話にも出ましたが、武石公園裏の住宅地については行政に相談がなく開発されたところで、もともと下水道を入れる予定がなかったところに新たに作られてしまったので、現在のところ下水道を入れる予定がありません。計画的な土地利用という面から考えると武石はまだ課題が多いと思います。

次に、地に足のついた農業振興についてですが、重要課題ではありますが何十年の間良い案が出てこないというのが現状です。農地関係については課題にありますが、地域農業の担い手の育成、農地の利用集積、遊休荒廃地の活用についてなど、大ざっぱな形でしか載せていませんが、もう少し具体的にいい案があればご提案いただきたいと思います。先日農政懇談会があり出席された方もいらっしゃるかと思います。緑保全事業や転作の関係など一生懸命やっている方のところへ補助金を出していくという形になっていますので、これ以外にもっと必要なことなどがあればぜひ提案していただきたいと思います。商工業についても触れていませんので、載せるべきなんですが具体策をどうしたらいいのかという問題がありますので、こちらでもいい案を出していただければと思います。

次に子どもを遊ばせる場所についてですが、ご承知のとおり児童館の建設計画がありますので、別の組織で検討しなければいけないと思いますが、一定程度具体的に反映はできると思います。児童公園のことについてはすぐ改善もできる内容かと思います。

教育の問題についても、教育委員会の問題ですのであまり申し上げられませんが、例えば35人学級を堅持してほしいなど、声として出していただければと思います。

次に産婦人科の問題ですが、市でも非常に大きな問題としてとらえています。ただ、国も産婦人科医、小児科医は全体的に不足してきているということです。根本には2年前の研修医制度の変更があり、大学病院から各地方の病院へ医者を派遣しなくなったことが一番のもとにあり、さらに労働条件がきついなどで医者が減っているという根本的な問題があります。市にはご存知のとおり産院があり、去年いろいろあり存続ができたわけですが、今産院の建物が非常に古く建て替えなければいけないという話も出ていますが、建て替えても果たして医者の確保ができるのかという懸念感も持っているような状況です。お話のとおり、非常に重要な問題で地域では解決できませんが、あげたほうがいいと思います。

(委員)

上本入の山の中に家を立てる方がいますが、一番困るのはやはり除雪の問題です。山林なので家は簡単に建てられますが、夏のいい時に来て家を建ててしまって、冬になったら雪が50cmも降ってしまって地元の人たちをお願いしたいと言われても、非常に大変な話です。行政としても、後々問題が起こらないように住宅申請があったときにしっかり指導してほしいと思います。それから、方針の中にあります林業体験などは、私も協力していきたいと思っています。一番問題なのは事故等があったときの補償の問題です。善意でやりたいと思っても、後ろに引っ込んでしまう状況です。練馬のスキー教室で

も、「怪我をさせると担任や教育委員会が怒られるから、絶対にさせないようにやってほしい」と言われてしまうと、スキーの面白みも何も教えられなくなってしまいます。ボランティアでいろいろやりたいという意思があっても、実際はできない状態です。山に入ればハチやヘビはいますし、林業体験でナタやカマも使いますので、当然危険はあります。指導する人の責任になっては何もできません。方針に書かれている体験はとてもいいことであり、山などで転ぶなどいろいろあるのがまた体験だと思いますが、何かあったときの補償問題もありますし、非常にジレンマを感じています。これについても、皆さんで考えていただきたいと思います。

（会長）

実際に、善意で預かった人が事故等の補償をしなければいけないという話も聞いたことがあります。日常生活のコミュニティもなくなってしまって、なるべく人に近寄らない、子どもは見てもしからない、見て見ぬふりをするという世の中になってしまっています。それが決していいとは思いませんので、どうしたらいいのか皆さんに考えていていただきたいと思います。

（委員）

武石の特色を出すなら、田舎は田舎らしく自然を大切にするということがいいと思います。交通の便が良い方がいいですが、美ヶ原も高山植物がたくさんあって観光客がたくさん来るといいうほうがいいと思います。

（委員）

確かにそういうことはいえると思いますし、多くの委員の方がそう思っていると思いますが、結果として数十年後に「武石に住んでいて良かった」と思えるような地域づくりを考えていかなければいけないということが基本になると思います。私たちが諮問に答えていくということはそういうことだと思います。地域を作り上げていくということは、自然に任せるのではなくて、私たちが諮問に答えてどういう地域を作るかをきちんと整えていく必要があると思います。

（会長）

今、言われたことがこの会の課題だと私も思います。自分の考えた意見は非常に貴重な意見ですし、人とは違った意見がまた新しい刺激にもなりますのでお出しいただきたいと思います。

（委員）

生活改善グループの活動の中で、保育園児とのさつまいもづくりや小学生との米づくりなどに携わってきましたが、農業等で土に触れている子どもたちは素直に育っているような気がします。これからも子どもたちと土に触れることは続けていきたいと思っています。以前に農業体験に来た子どもの中に、手が汚れるから土に触れるのは嫌だという子がいました。保育園でも小学校でも結構ですが、農業体験をやらせていくような場所などがあればいいなと思います。

（委員）

私も同意見なのですが、毎年、武石小学校では5年生が米づくりを行っていて、年末には売るくらいの米を作っていました。通常の学校では体験程度です。この会には生活改善グループの方もいますし、私は生活クラブに加入していますが、武石は生活クラブの加入率が長野県で一番高く、約10%の方が加入しており、食に対する関心が高いのかなと感じています。それを教育に結び付けられないかと考えています。生活クラブでは健康センターにある調理室を使って、小学生を対象にした親子料理教室を年3回やっていますが、30人以上になりますので非常に手狭だと感じています。武石公民館の調理室でも料理教室が開催されますが非常に狭くて、計画のある児童館や図書室にもう少し広い調理スペースを設けて、いろんなことを体験できる場所としてほしいと思っています。

（委員）

武石の文化的な財産を継承していくことも非常に大事だと思います。例えば御柱も、後継者がなかなか育たず大変なようですし、一番は費用がかかるということですが、行政にお願いしていくのはなかなか難しいことかもしれませんが、御柱の行列そのものは文化の継承ということになりますので、ぜひ支援してもらえるように計画に載せてほしいと思います。

（委員）

地域協議会だけではなくもっと広い範囲で、例えば区の方も交えて意見を聞くような場も作っていったらどうかなと思います。また、地域協議会の役割、任務について、ようやく少しわかってきたかなと思っていますが、合併に対する住民不安の解消ですとか、住民の自治意識の高揚や住民と行政との協働の体制づくりなどが視点としてありますが、希望者だけでももう一度任務についての勉強をさせていただければと思います。

（会長）

センター長にお聞きしますが、区長会は年に何回か開催し、要望事項を取りまとめたりしているのですか。

（宮下センター長）

今年は4回開催しています。各区のハード的な要望については、来年度の予算を組む前の10月に提出していただいています。来年度以降は、隔月で開催していく予定です。

（会長）

区との懇談の場については、現在も区長会から正副会長さんが地域協議会委員として選出していますので、区からの要望についてはつなげていただけたと思います。実際、区長さんに自分の区以外の総体的な問題について意見を聞くというのも難しいのではないかと思います。区長さんとの合同の協議というのが必要だということであれば、事務局で協議していただいて検討していただければと思います。

（委員）

合併を期に、4地域の自治会や区長会でも自治会のあり方について検討をしてきました。

来年からは区から自治会という名称に変わって、その名称のとおり、地域のことは自治会長が責任を持ってやっていく、自分たちでできることは自分たちで行っていくという基本的な考え方でやっていかなければいけませんので、先日の区長会でも区長の皆さんにはお伝えしてあります。自治というものがこれから浸透していくと思います。

（委員）

区から上がってきた要望というのは、地域協議会に諮られるのでしょうか。

（会長）

地域協議会はあくまでも行政からの諮問に対して答える機関です。

（委員）

上本入区から毎年松本市へ抜ける武石トンネルの要望を上げており、今年も出させていたしましたが実現性は薄いわけです。私は武石峠をバスが通れるように改良してもらうように切り替えていった方がいいのかなと思っています。美ヶ原については美術館から王が頭までの頂上は車が通れませんが、頂上はそのまま私はいいいと思っています。観光面で必ずしも車の便だけが有効だとは思いませんし、散策していただいたりそこで時間を過ごしていただくことが重要だと思います。

（宮下センター長）

トンネルについては、結論からいうと可能性はほぼないです。以前に建設事務所にも話をした経過がありますが、その時の話ですが、トンネルを開けるには勾配を確保していかなければいけないということで、だいぶ下の方から道をあげていかなければいけないそうです。建設事務所としては構造的にほとんど考えられないというお話でした。県の方とすれば岡谷市と上田市を結ぶ道路、佐久市と松本市を結ぶ道路などを考えたいということで期成同盟会を立ち上げていましたが、現在は両方ともほぼつぶれてしまった状態です。市長も松本市や佐久市と協力して、佐久松本間の道路期成同盟会の活動について盛り上げていくという話が出てきていますが、武石を通るということはほとんどないかと思っています。

（委員）

不可能を可能にするのが努力であるし、前向きに取り組んでいただかなければ道路網整備はできないと思います。

（宮下センター長）

トンネルについては構造的にもかなり難しいので、それよりも上小30圏の話の方が私たちの生活に強い影響がありますので、そちらをやっていただいた方がいいかなと思います。ただ、そのために武石で何ができるかという、武石地域では何もできませんし、主に丸子地域でやっていただかなければいけませんので、武石の意見として課題に取り上げていかなくてはいけないと思います。

（委員）

平井寺トンネルの無料化については、近い将来実現すると思いますので、平井寺トンネルからまっすぐ武石にトンネルを開けていただくのが私はいちばん簡単だと思います。私

が心配しているのは、武石の人たちは美ヶ原燃料から小屋坂トンネルの間で事故が起きたら誰もその先へ行けなくなってしまうということです。武石だけでなく長和町の人も同様ですが、その危険性を多くの人が気付いていないということが私はとても不思議に思っています。トンネルについては構造的に考えても不可能ではないと思います。

（副会長）

青少年育成や、子育て支援だけでなく中高年の人たちへの支援として生涯教育の支援についても盛り込んでいただきたいと思います。

（会長）

今日、たくさんのご意見を出していただきました。この問題について武石地域の考え方や各課から出てきた課題を事務局の方で精査していただいて原案にまとめ、最終方針を決めることにしたいと思います。

4 上田市地域協議会連絡会議の設置に関する同意について

（児玉地域政策担当係長）

- 「（仮称）上田市地域協議会連絡会議」の設置について資料に基づき説明 -

（会長）

それでは上田市地域協議会連絡会議の設置について同意が必要ということですので、賛成の方は挙手をお願いします。

- 挙手全員 -

挙手全員ですので、同意することとします。

（委員）

意見ですが、報酬が無報酬になっていますが、地域協議会の費用弁償と同様に会長が招集したものについても費用弁償は出すべきではでしょうか。

（児玉地域政策担当係長）

報酬のことですが、内規として協議会の会長が招集したものについては報酬の対象になりますが、個々の委員さんが勉強会を開くという場合には市民協働という考え方で、自分の地域の課題については自分のボランティアの気持ちで協働で行っていくということで無報酬ということになっています。それに基づいて連絡会議につきましても原則無報酬ということになっていますが、意見としてつなげたいと思います。

（副会長）

皆さんから大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。新たに気付くこともあり、大変勉強になりました。

本日は皆さん大変お疲れさまでした。